

論文紹介

企業規模ごとの死亡リスクと社会参加：JAGESにおける6年間の追跡研究

Kanamori S, Kondo N, Takamiya T, Kikuchi H, Inoue S, Tsuji T, Kai Y, Muto G, Kondo K. Social participation and mortality according to company size of the longest-held job among older men in Japan: a 6-year follow-up study from the JAGES. Journal of Occupational Health. 2021; 63(1): e12216.

甲斐 裕子

背景 企業規模（従業員数）によって、労働環境や
目的 産業保健サービスなどが異なり、小規模企業の従業員ほど健診結果などが不良であることが示されている。その格差は高齢期にも持ち越され、小規模企業に長く勤めた男性では、大企業に勤務した人よりも死亡リスクが高いことが報告されている。一方、高齢期の社会参加は健康に恩恵があるが、小規模企業に勤務してきた人でも恩恵があるか不明であった。そこで、日本人男性高齢者を対象に、最も長く勤めた企業の規模別に社会参加と死亡との関連を明らかにした。

方法 本研究はJAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究)の一環である。2010～2012年にかけて、16自治体に住む要介護認定を受けていない65歳以上の男女95827人に質問紙調査を実施した。その後2016年まで、死亡や転出の有無に関する情報を追跡した。企業での就労経験がある男性19260人を解析対象とした。最も長く勤めた企業の規模は、「あなたのこれまでの仕事のなかで、最も長く勤めた会社・組織全体で何人くらいの方が働いていましたか」という質問から取得した。社会参加は、就労（あり）、町内会・自治会、趣味のグループ、スポーツのグループ（年数回以上）とした。

結果 平均年齢は73.3±5.7歳で、追跡期間中に2870人（14.9%）が死亡した。社会参加の割合は、49人以下の企業に勤めていた男性では、就労者が多い反面、それ以外の社会参加は少ないという特徴があった。年齢、所得、教育歴、最も長く勤めた職種、疾患等を考慮した解析の結果、いずれの企業規模および社会参加においても、参加者は有意に死亡リス

クが低かった（図）。また、この関連は企業規模が小さいほど参加による恩恵が少なそうであった。

結論 小規模企業に長く勤めた男性高齢者でも、社会参加することで死亡リスクが低下する可能性が示唆された。ただし、健康格差是正の観点からは社会参加のあり方の検討が必要である。

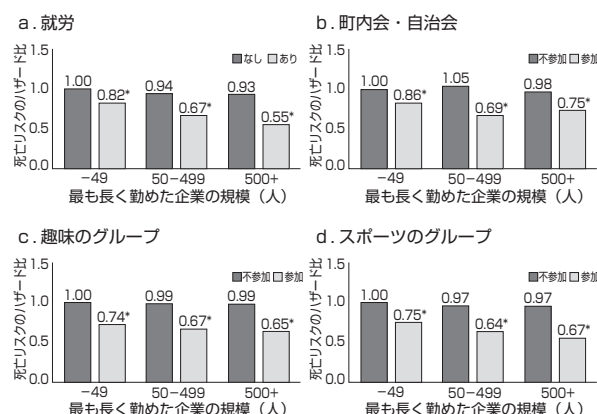


図 最も長く勤めた企業の規模と社会参加の有無による死亡リスク

すべての解析において年齢、所得、教育歴、最も長く勤めた職種、居住地、世帯構成、BMI、治療中の疾患を考慮

*P < 0.05

執筆者によるコメント

日本を代表する高齢者コホートのJAGESから得られた成果です。現役時代から高齢期に持ち越された企業規模による格差を、社会参加によって縮小できないかと考え、解析を実施しました。すべての企業規模の群で社会参加によって死亡リスクは低減していましたが、その恩恵は大企業ほど大きい傾向があり、格差が縮小しているとはいえませんでした。一律に社会参加を促すのではなく、社会経済的状況を考慮した政策の必要性を示唆する研究結果となりました。